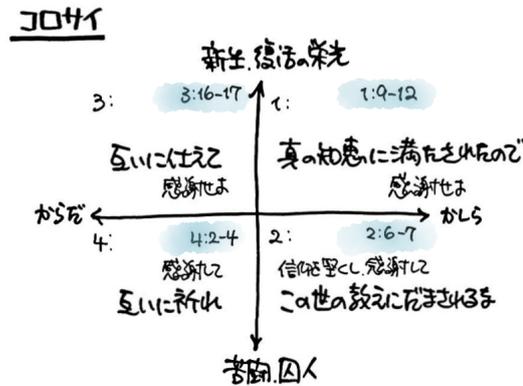




コロサイへの手紙 1-4章 コロサイ人への手紙の祈り

予想：手紙の中α祈りは、その手紙の全体概略になっている。

2016.3.18



- ・ 1:9-12の祈りα分析 → 2016.2.19
 - ・ 父なる神に感謝せよ (準祈り) がコロサイαテーマ
 - ・ 各段落の感謝が概略と一致している!
- | | eucharistia | |
|---|-------------|-----------------|
| + | 2168 | 1:3, 1:12, 3:17 |
| + | 2169 | 2:7, 4:2 |
| + | 2170 | 3:15 |

手紙の中の祈りが、その手紙全体の概略になっているのではないかと予想です。

コロサイ人への手紙の分析です。1章9節から12節に祈りがあるので、その段落を4つに分けることができます。その4つが1,2,3,4というコロサイの段落を表しているかと思ったのですが、そうでもないということで、どうなっているのかということでした。

コロサイ人への手紙は、知恵をもって偽りと戦って感謝しなさい。感謝で戦うという手紙でした。「父なる神に感謝せよ」という言い方が、それぞれの段落に入っています。最初の祈り1章9節から12節の中の祈りの結論のところ、「父なる神に感謝しなさい」というところで終わっているその「感謝せよ」というのと同じように、2章6節から7節、3章16節から17節、4章2節から4節の「感謝せよ」というコロサイ人への手紙のテーマが全体をあらわしているのではないかとということで見ました。

最初の1章の段落(1:9-12)は、真の知恵に満たされたので、福音の真理のことがあらわされた。その栄光があらわされるので、感謝せよ。

2番目の段落(2:6-7)は、この世の知恵、幼稚な教えと戦っています。この世の教え、偽りに騙されるなどというところがあるのですが、信仰を強くして感謝しなさい、それによって、この世の教えに騙されない。

3番目の段落(3:16-17)は、互いに、互いに、互いに…というのが多いところです。互いに偽りを言わない、互いに赦しあう、互いに仕え合う、互いに教え合う。互いに仕えて感謝する。

4番目の段落(4:2-4)は、感謝しているので、互いに祈り合うというこの段落が全体を構成しているという意味で、この予想はコロサイ人への手紙にも適用されると思います。

かしら側(1:9-12/2:6-7)とからだ側(3:16-17/4:2-4)。上の段の方(1:9-12/3:16-17)は、勝っている、下の段(2:6-7/4:2-4)は負けるなというように見ることもできると思います。